

夜尿症の 子どもの トータルケア

特集にあたって

夜尿症が治せる時代がやってきた!

発達障害や、何らかの基礎疾患のために、排尿・排便がうまくいかない子どもが少なからずいます。トイレトレーニングは、一般的には3歳半ごろに概ね完了しますので、幼稚園や保育所の年中組になっても、便のお漏らしや、昼間の尿のお漏らしが解消しなければ、その原因を調べる検査や、排泄のトラブルに対するトレーニングが必要です。夜間就寝中のお漏らし、すなわち、「夜尿症」は、5歳ごろに8割が解消しますので、小学生になっても続く場合は治療の適応になります。

排泄障害の原因は多岐にわたるため、そのマネジメントには、医師、看護師、その他の医療スタッフのみならず、保育士や学校教諭の協力が必要です。医師や看護師も、腎泌尿器、内分泌、神経、精神発達などさまざまな領域の知識と経験が必要になります。

医学生や看護学生それぞれの領域の国家試験における設問が、学習内容の一つの指標になるかもしれません。

2014(平成26)年の医師国家試験に初めて、以下の夜尿症の問題が出題されました。

「11歳の男児が、修学旅行の2週間前に来院した。尿検査は正常であり、超音波検査でも腎泌尿器の異常はみられなかった」という患児への対応を選ぶ五者択一の設問で、①経過観察、②おむつの使用、③終日の水分制限、④修学旅行の不参加、⑤三環系抗うつ薬の内服、という解答の選択肢が提示されました。正答は、海外でもわが国でも第三選択薬剤の位置づけにある、⑤という残念な設問でした。

その2年前の看護師国家試験には、「4歳児が、かぜで小児科外来を受診した際に、診察を待っている間、母親から看護師に「昼間は自分でトイレに行けるようになったのに、まだおねしょをするのですが大丈夫でしょうか」と相談があった」という場合の看護師の適切な対応を選ぶ、四者択一の設問で、①「今は心配ないのでもう少し様子を見ましょう」、②「夜中に1度起こしておしっこを促してください」、③「2時間おきにトイレに行く習慣をつけましょう」、④「小児専門の泌尿器科を受診したほうがよいでしょう」が提示されました。正答は、①というものでした。

このような背景から、夜尿症の診療には、看護師の役割の大きさを強く感じます。

近年、夜尿症をはじめとする排泄障害の医療・看護・養育

に少しずつ関心が高まってきたように思いますが、親たちには、「病院で相談してみる必要性」がまだ周知されていないように感じます。もっとも頻度の高い「夜尿症」の医療と研究に取り組む日本夜尿症学会は、約30年ほど前に発足し、夜尿症の治療を確立してきました¹⁾。しかし、夜尿症の治療は煩雑で、一般小児科医には実践がやや難しいという問題がありました。同学会では、2004(平成16)年に診療ガイドライン²⁾を作成しましたが、治療指針については担当医に委ねられるという形でした。

2000年代になって、国際小児尿禁制学会(International Children's Continence Society; ICCS)が発足し、2010(平成22)年にICCSから、夜尿症の多数を占める単一症候性夜尿症(昼間の尿失禁を伴わない夜尿症)の推奨治療³⁾が発表され、2012(平成24)年に夜尿症治療の第一選択薬剤である抗利尿ホルモン薬の経口剤が使用可能⁴⁾となったことを受けて、日本夜尿症学会では、2016(平成28)年初夏にガイドラインの改訂⁵⁾を行いました。この新ガイドラインは、かかりつけ医が容易に夜尿症診療に取り組めるような内容となっています。

こういった背景の下、本特集では、医療従事者と教育・養育者、さらには製薬企業などが一丸となって夜尿症の解消に向けた取り組みをまとめました。一人でも多くの子どもと家族が悩みから解放される助けになることを願っています。

【文 献】

- 1) 西美和：夜尿症の診断と治療；日本の小児科夜尿症専門医による病型分類と治療手順。外来小児科 16(3)：332-338, 2013.
- 2) 河内明宏、津ヶ谷正行、相川務、他：日本夜尿症学会；夜尿症診療のガイドライン。夜尿症研究 10：5-13, 2005.
- 3) Neveus T, Eggert P, Evans J, et al: Evaluation of and treatment for monosymptomatic enuresis: a standardization document from the International Children's Continence Society. J Urol 183(2)：441-447, 2010.
- 4) 大友義之、海野大輔、高田大、他：経口デスモプレシン製剤(ミニリンメルト[®] OD錠)を用いた夜尿症治療の経験。小児科診療 76(4)：661-666, 2013.
- 5) 日本夜尿症学会・編：夜尿症診療ガイドライン2016。診断と治療社、東京、2016.

順天堂大学医学部附属練馬病院小児科先任准教授
大友義之 Ohtomo Yoshiyuki